


## 講座のアピールポイント

病理診断学は臨床系講座の一つであり、病院の病理診断科を担っています。診療は主に顕微鏡を用いて患者さんの病気を診断する病理診断、術中迅速診断、病理解剖を行っており、全ての臓器を対象とするのが特徴です(図1)。病理医は、患者さんから採取された病気のものをみて診断し、主治医に必要な情報を伝え、治療の根拠を示すことから、Doctor's Doctorと呼ばれています(図2)。

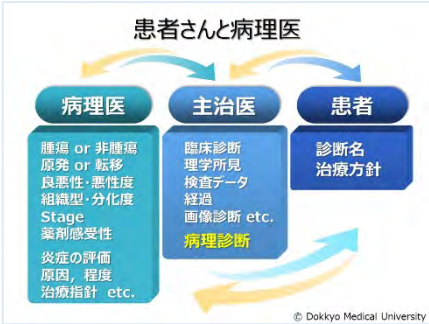
診断の屋台骨となり治療の根拠を示すためには、病気のメカニズムを理解する必要があります。病理医ならではの気づきを大切にしながら、病理診断と研究を連動させて、客観性に裏付けられた自らのデータを発信できるよう研究を行っています。

**病理医が行っていること**

- 病理診断
- 術中迅速診断
- 病理解剖
- 病理外来



■ 特徴 全ての臓器を対象



## 講座研究紹介

病理学は、病(やまい)の理(ことわり)を学ぶ学問です。様々な方法を用いて、基礎医学から臨床医学までを網羅した研究が行える懐の広さが魅力と言えます(図3)。その中でも我々は形態学を基盤として、免疫組織化学や時に分子生物学的手法を用い、様々な疾患の臨床病理学的特徴を明らかにすることを目指しています。特に、癌が増殖するために形成された癌微小環境を、実際に顕微鏡で確認しながら検討する手法は、病理医ならではの研究です(図4)。様々な癌で腫瘍の層別化、進展メカニズムの解明を進めています。また、薬物療法の効果判定、画像診断との比較など、臨床像との対比も重要な研究課題です。

